

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

配置学科	担当教員名	科目名	履修学年	単位数	講義内容
児童福祉学科	太田修平	保育実習Ⅰ・施設	2	2	児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、児童福祉施設における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に利用児(者)への理解や職員間の協調性のあり方を模索させ、理論を実践の場で具体化することを目的に、利用児(者)との関わり方など、体験を通して理解できるようにする。
児童福祉学科	室崎美佐子 小合明美 西原嘉子	保育実習Ⅰ・保育所	2	2	保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育所における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に子どもへの理解や職員間の協調性のあり方を模索させる。また、理論を実践の場で具体化することを目的に、保護者の良きパートナーとなり、生活習慣等の自立への支援や、乳幼児の関わり方など、体験を通して理解できるようにする。
児童福祉学科	室崎美佐子 小合明美 西原嘉子	保育実習Ⅱ ※ ※保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲを選択	2	2	保育所やこども園での保育士および実習生指導の経験がある教員、児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、実際の保育現場において保育実習Ⅰを基礎として、次のことを指導する。 ①保育の基本的な役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもにとっての環境に視点を持ち、観察や関わりを通して保育の理解を深める。 ③保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④諸教科で学んだ理論との関連性を見出し、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益について学ぶ。 ⑥実習における自己課題を明確化する。
児童福祉学科	太田修平	保育実習Ⅲ ※ ※保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲを選択	2	2	児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育実習Ⅰで習得した知識・技術や諸教科で学んだ理論を踏まえて、施設養護に携わる保育士としての指導技術や知識の習得、施設の利用児・者と養護内容の実際、施設の持つ全体的養護機能、さらには保育士としての役割や職業倫理について学ぶ。
児童福祉学科	太田修平	施設基礎実習	1	2	児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、障害児(者)との触れ合いを通して、障害児(者)に対して保育士としてどのような関わりができるのかを学ばせ、保育士として、広い視野を持って利用者を支援するための力を養うことを目的とする。
児童福祉学科	室崎美佐子 小合明美 西原嘉子	保育所基礎実習	1	2	保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、現場指導者と連携しながら、保育所での参加型実習を通して、保育士の役割や子どもの一日の園生活の流れを知る。 また、子どもの発達やあそび等について保育園の環境構成について学び、2年次の「保育実習Ⅰ・保育所」に向け、保育所・子ども・保育士について具体的なイメージをもつ。
児童福祉学科 合計 10単位(保育実習ⅡまたはⅢいずれかのため)					

配置学科	担当教員名	科目名	履修学年	単位数	講義内容
看護学科	賀川奈美	子ども看護実習Ⅱ（発達障がいがある子どもの支援）	3	1	発達障害がある子どもとの関わりをとおして、一人ひとりの特性に応じた関りの重要性と、家族への支援の必要性を看護の視点から学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	植木敦子	障がいがある人の理解と支援実習	1	2	重度の身体的・精神的な障害がある人の命と人権を守り、対象者の尊厳を理解し、よりよく生活するための看護の特徴を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	基礎看護学実習Ⅰ—(1)（看護を知る） 基礎看護学実習Ⅰ—(2)（日常生活援助を支える） この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	基礎看護学実習Ⅱ（治療過程を支える）	1	2	対象者の健康状態に応じて観察した結果をもとに、治療、症状、検査などに伴う対象者におこる状況を判断し、対象者の回復過程を支えるための根拠にもとづいた看護実践を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	地域・在宅でくらす人を支える看護実習	3	1	地域・在宅でくらす人々が、社会資源を活用し、終の棲家である施設の中で、その人らしく充実した生活を送るための看護の役割を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。
看護学科	看護学科教員	地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅰ（在宅復帰に向けた看護）	3	1	地域包括ケアシステムの観点から多様な場での看護の役割を理解する。ここでは特に在宅に復帰するため施設に入所し、リハビリテーションを必要とする高齢者とその家族との関わりをとおして、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、在宅復帰に向けた看護の役割や多職種連携について学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。
看護学科	看護学科教員	地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅱ（在宅での看護）	3	1	地域包括ケアシステムの観点から多様な場での看護の役割を理解する。ここでは地域で生活しながら療養する人々やそれを支える人々の医療管理や生活援助の実際を理解し、在宅における看護を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。
看護学科	看護学科教員	クリティカルケア実習	3	2	急速に健康状態が変化する病態や治療とその影響について理解する。また、注意深い観察とアセスメントにより状態を悪化させる要因を取り除き身体の機能の安定や合併症の予防、早期回復に向けて支援する看護師の役割を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	子ども看護実習Ⅰ（子どもの支援）	3	1	乳幼児の日常生活行動を実際の保育活動を通して観察し、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。
看護学科	看護学科教員	セルフマネジメント看護実習	3	3	対象者のセルフマネジメント能力を引き出し、自己管理に向けて自己効力を高めるように支援する看護師の役割を学ぶ。また、終末期の対象者へ全人的苦痛を緩和しその人が望む人生を送ることができるよう支援する看護師の役割を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。

看護学科	看護学科教員	療養生活を支える看護実習	3	3	療養生活を必要とする高齢者の健康状態と加齢変化が及ぼす影響を考えながら、起こりうるリスクを最小化し、もてる力を引き出し、退院支援や地域連携の考え方を知り、高齢者の看護の特徴と役割を知る。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	命をはぐくむ人への看護実習	3	2	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者の生理的変化をふまえ、対象に応じた看護を学ぶ。また、新しい命を迎える家も含めた看護について学ぶ。生命の尊厳・生命倫理について考え、母性看護の意義、役割を体験と理論を統合して理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	精神看護学実習	3	2	対象者との治療的関係の構築をとおして精神に障がいがある対象者の精神症状が生活に及ぼす影響を理解し、対象者の自律性の回復を支える看護の役割を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	看護におけるマネジメント実習	3	1	入院した対象者が質の高い医療や看護をうけるためのしくみについて体験をとおして学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。
看護学科	看護学科教員	看護の統合実習	3	1	看護チームの一員としての体験をとおして、今まで学んだ知識・技術・態度を統合し、一日の業務の組み方、優先順位など看護を判断する根拠を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。

看護学科 合計 24単位

配置学科	担当教員名	科目名	履修学年	単位数	講義内容
介護福祉学科	中西貴子 石川静葉 他	生活支援技術C (基本介護技術)	1	8	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 介護の原則である「自立(自律)支援」「尊厳の保持」「安全・安心」を土台とし、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 ICF の概念に基づくアセスメントを行い、さまざまな対象者に適切な生活支援が展開できることを目指す。
介護福祉学科	介護福祉学科教員	生活支援技術D (基本介護技術)	2	4	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 生活の継続性を支援する観点から、生活支援技術 C(基本介護技術)の知識・技術を土台に、対象者の個々の状況に応じた支援が実践できるための個別援助技術を習得する。 また、社会生活の維持拡大に向け、ご利用者の楽しみ、役割、生きがいにつながる視点を養い、状況に応じた生活支援技術が実践できることを目指す。
介護福祉学科	小淵順子	介護過程展開 I	1	2	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 介護過程におけるアセスメントの必要性を理解し、「必要な支援とその理由」を明確にする。 事例学習を繰り返し、実習Ⅱ-1 にむけて実践的能力を養う。

介護福祉学科	小淵順子 中西貴子	介護過程展開Ⅱ	2	1	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>利用者のさまざまな生活の中から、個別の生活課題や潜在能力を引き出すための介護過程の展開について学ぶ。</p> <p>利用者のさまざまな状況に応じた介護過程の展開方法について習得し、介護実習Ⅱ-1を通してアセスメント能力を主とした実践力を身につけ、実習Ⅱ-2につなげていく。</p>
介護福祉学科	介護福祉学科教員	介護過程展開Ⅲ (事例研究)	2	2	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>介護実習の体験に基づくケース研究を行い、介護過程の展開を総合的に学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅱ-2で担当した利用者を通して自立支援に向けて、総合的・計画的サービスを提供できる能力を身につける。</p>
介護福祉学科	田中いづみ 他	医療的ケア	2	2	<p>看護師として実務経験を有する教員が、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。</p> <p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p>
介護福祉学科 合計 19単位					